

2015年度 CTVCーカトリック東京ボランティアセンター 活動報告

1. 2015年度の動き

今年度も日本のカトリック教会の被災地支援「オールジャパン体制」のもと、主に宮城県南部と福島県全域での活動を継続した。

支援活動地として福島県福島市、白河市、南相馬市、会津若松市、宮城県亘理郡、山形県米沢市での活動を継続した。被災地域や避難地域で自主的に支援活動を実施しているカトリック松木町教会、白河教会、原町教会、会津若松教会、亘理教会や NPO（きらきら星ネット、東京）、自主避難者グループ（ハート・ウェッジ福島）などのグループと連携し、「ボラパック」（数日間のボランティア企画）やイベントの実施、物資支援などを実施した。

南相馬市では「カリタス原町ベース」の運営を継続した。ボランティアを受け入れ、南相馬市鹿島区の社会福祉協議会と連携し、がれき撤去などのボランティア活動や地元の支援団体と連携し仮設住宅でのカフェサロンを実施した。また、社会福祉協議会より依頼され、仮設住宅の、主に独居世帯への見守り活動を職員とともに行った。また、新たな動きとして、今後も長期的に復興支援活動に携わるため、カトリック原町教会敷地内にカリタス原町新ベースを建設することとなった。そのために教会や隣接するさゆり幼稚園、地域の方々、仙台教区などと2016年度中の完成に向けて継続的な話し合いの場を持った。

被災地全域のベースへの長期ボランティアの募集・選考・派遣を行った。また仙台教区サポートセンターが主催する「全ベース会議」に参加、2012年から実施している「福島ブロック会議」へは参加グループとして継続的に出席している。

特に福島においては、先の見えない避難生活の中で避難元に近い地域や避難先で家を求め退出する世帯もあり、入居者の数が徐々に減少し始めた。福島市の宮代仮設住宅では、2017年3月に閉鎖が予定されている。

白河市では、入居者の転出による人数の減少や、避難生活の長期化ゆえ仮設住宅内の人間関係にも難しさが表面化する中で、傾聴グループ「みみずく」がきめの細かい傾聴活動を継続している。CTVCではみみずくの活動に合わせてスタッフを派遣していたが、仮設住宅入居者の減少に伴い、今後はみみずくのみで活動を実施していきたいとのみみずくの希望を受け、CTVCの物的人的支援は2015年12月末日をもって終了した。

宮城県亘理町・山元町では、仮設住宅から復興支援住宅などに転出する世帯が増え、2016年2月末をもって閉鎖する仮設住宅なども出てきた。

また、活動開始当初から行われていた学校やグループからの依頼による企画型ボラパックだが、学校によっては支援よりも研修の意味合いが濃く、現地のニーズとの差異を生じるものもあったため、現地のニーズに応えられるようボラパックのスケジュールや内容の見直しを行った。

また、山形県米沢市では、福島県から自主避難している避難者グループ「ハート・ウェッジ福島」からの支援要請に応え、カトリック米沢教会と協力して支援活動を継続した。メンバー同士の交流や子どもが思いきり遊べる場として、お花見遠足や夏には仙台への合宿などの活動を行った。

一方、被災地以外の地域における被災地支援への意識は格段に低下しており、ボランティアの減少も深刻化した。現在のボランティアはリピーターにより成り立っているような状況であり、

被災地の現状を伝え、新規のボランティア獲得につなげるため、昨年度に引き続き、講演会シリーズ「福島から語る」の実施や「かわらばん」の配布、ホームページやフェイスブックの活用、東京教区ニュースでの活動報告の連載などを通して情報提供・共有を図った。「福島から語る」の多言語による世界発信サイト「Voices from FUKUSHIMA!」では、日・英・仏・スペイン語により6名の体験とメッセージをインターネットで海外に向けて発信した。また、この5年間に実施した「福島から語る」のうち10名分の講演を収録した講演録「福島から語る」－3.11以降を生きる人々の声－を3月11日に3,000部発行し、東京教区その他に広く配布した。

2. 各地活動

(1) 宮城県南部

2015年度の亘理ボラパックは冬季期間(12月～2月)を除いて、ほぼ月1回催行し、地域の復興状況やニーズの変化を確認した。亘理町では、亘理町公共ゾーン仮設住宅集会所でのカフェやワークショップを合計4回行った。山元町では、やまもと復興応援センターからの依頼により仮設住宅から災害公営住宅への引っ越し準備を手伝った。また、沿岸部での活動として、曹洞宗普門寺にて毎月開催されている「てら茶房」でのイベント開催や、青葉稲荷神社の例大祭への協力を行った。さらに、「チーム亘理」の会合において、亘理町・山元町での支援活動の継続について各団体による情報共有と検討がなされた。

ボラパック以外の日程で活動を希望する2団体にはコーディネートを行った。また、仙台教区サポートセンター主催の被災地視察ツアーの亘理方面視察のコーディネートおよび案内を行った。

NPO 法人亘理いちごっこや山元町おてら災害ボランティアセンターなど、地元の団体との連携による活動が続いているが、4月に開設されたマリアの宣教者フランシスコ修道会のシスター3名の協力も得られた。

<ボラパック>

ボラパック開催回数:11回

ボランティア総数:141名

- ・ **第31回ボラパック(企画型:聖心女子大学)**

日程:2015年4月29日～5月1日

場所:山元町東田仮設住宅(4/30)、山元町新山下地区災害公営住宅(5/1)

活動内容:やまもと復興応援センターの活動 仮設から災害公営住宅への引っ越し準備

ボランティア人数:6名

- ・ **第32回ボラパック(公募型)**

日程:2015年5月22日～24日

場所:マイファーム宮城亘理農場(5/23)

亘理町公共ゾーン仮設住宅第1集会所(5/24)

活動内容:藍の定植作業(5/23)カリタスカフェ開催(5/24)

カフェ参加者数:7名

ボランティア人数:6名

- ・ **第33回ボラパック(企画型:JLMMゴスペルクワイア)**

日程:2015年6月19日～20日

場所:山元町普門寺(6/20)

活動内容:ゴスペルコンサート

ボランティア人数:12名

・ **第34回ボラパック(企画型:目黒星美学園中学高等学校)**

日程:2015年7月30日~8月1日

場所:亶理町公共ゾーン仮設住宅第1集会所(7/31)

活動内容:せいびっこカフェ

ボランティア人数:13名

・ **第35回ボラパック(企画型:聖園女学院高等学校)**

日程:2015年8月17日~18日

場所:山元町中浜小学校・花釜区

活動内容:花壇の草取り、ハマボウフウの種取り

ボランティア人数:14名

・ **第36回ボラパック(企画型:白百合女子大学・聖心女子大学)**

日程:2015年8月31日~9月1日

場所:亶理町マイファーム宮城亶理農場(8/31, 9/1)

亶理町野地集落センター(9/1)

活動内容:トマトの収穫作業、ふれあいカフェ開催

カフェ参加者数:12名

ボランティア人数:20名

・ **第37回ボラパック(企画型:JLMMゴスペルクワイア)**

日程:2015年10月31日~11月1日

場所:山元町青巢稻荷神社(11/1)

活動内容:ゴスペルコンサート

ボランティア人数:6名

・ **第38回ボラパック(公募型)**

日程:2015年11月27日~29日

場所:山元町普門寺(11/28)

公共ゾーン仮設住宅第1集会所(11/29)

活動内容:クリスマスリース・お正月飾りワークショップ

カフェ参加人数:2名(11/29)

ボランティア人数:3名

・ **第39回ボラパック(企画型:JLMMゴスペルクワイア)**

日程:2016年3月10日~12日

場所:カトリック亶理教会、山元町旧山下駅・旧坂元駅

活動内容:亶理教会追悼ミサ、山元町「追悼の竹灯ろう」

ボランティア人数:18名

・ **第40回ボラパック(企画型:目黒星美学園中学高等学校)**

日程:2016年3月24日~26日

場所: 亶理町公共ゾーン仮設住宅第 3 集会所・亶理町西木倉住宅集会所(3/25)

活動内容: せいびっこカフェ開催

カフェ参加者数: 6 名(公共ゾーン第 3), 8 名(西木倉住宅)

ボランティア人数: 43 名

<他団体との連携>

- ・ 2015 年 5 月 18 日、チーム亶理 第 4 回会合開催。(亶理教会)
- ・ 2015 年 8 月 16 日、花釜夏祭りにスタッフ参加。(山元町花釜区)
- ・ 2015 年 10 月 20 日より、SDSC 主催被災地視察ツアーの亶理方面案内を担当。
2015 年 10 月 20 日 B コース(福島・宮城)
2015 年 11 月 9 日 A コース(岩手・宮城)
2015 年 12 月 9 日 B コース
2016 年 2 月 22 日 B コース
2016 年 3 月 13 日 A コース
- ・ 2015 年 11 月 23 日、チーム亶理 第 5 回会合開催。(亶理教会)

<その他>

- ・ 2015 年 8 月 16 日～18 日、浦和明の星女子高等学校ボランティア活動コーディネート。
- ・ 2015 年 8 月 23 日～24 日、カリタス小学校教職員有志ボランティア活動コーディネート。

(2) 福島県福島市

2011 年 9 月より、福島市カトリック松木町教会「愛の支援グループ」との協働のもと、浪江町から避難している福島市宮代仮設住宅にて活動を開始。宮代仮設住宅は現在 31 世帯が暮らす。その多くは 65 歳以上の高齢者であり、中には独居の高齢者が 1 割ほど居住している。2015 年度は、福島市内に完成した復興公営住宅への転出や福島市、南相馬市、相馬市などに家を求めて転出する入居者が増えたため、世帯数が大幅に減少した。2016 年度には、南相馬市などに復興公営住宅が完成する予定であり、2017 年 3 月の宮代仮設住宅閉鎖予定に伴い、さらなる転出が見込まれている。

本活動では、お抹茶と茶菓子をいただきながらの傾聴イベント「ふれあい茶の湯」を中心に毎月行われるお誕生会や、避難元の浪江で行ってきた年中行事をともに祝う「楽しい昼食会」を含め、月 2 回の活動を継続して行った。今年度の特徴として、復興公営住宅への転出が始まる前の思い出づくりのために日帰りバス旅行や、松木町教会主催による「希望の風フェスティバル」を実施した。これは、今後の生活に様々な変化があろうとも、このフェスティバルが新たな一歩への希望を込めた新しい風となるよう、またこれまでの活動に参加されたボランティアへの感謝の思いも込めたイベントとなった。

CTVC では、2015 年度も引き続き、宮代仮設住宅自治会及び愛の支援グループと調整を行い、「ボラパック」としてボランティアや食事担当チームを派遣、浪江盆踊り大会、温泉ツアーやクリスマス会、餅つき、お正月、初釜など季節のお祝い事などを中心にイベントを実施。計 24 回のボラパックを実施した。12 月の餅つき大会は、通算 100 回目のボラパックとなった。

2014 年度末をもって宮代仮設住宅自治会が解散したため、集会所の世話係との調整で企画を進めた。「愛の支援グループ」が新たに「カリタス便り」を定期的にポスティングすることで入居者の方々へのお知らせなどつながりを継続できるよう努めた。

10 月に多くの転出があったが、転出先の復興公営住宅で車を乗り合わせるなどしてイベントに参加して下さる方々もあり、仮設住宅に残る入居者の支えとなっている。

<ボラパック>

ボラパック開催回数：24 回

ボランティア総数：448 名（現地ボラ 252 名、CTVC196 名）

参加者（受益者）総数：445 名

- ・ **第 83 回ボラパック（観桜会）**

日時：2015 年 4 月 17 日～18 日

場所：宮代仮設住宅

参加者数：23 名

ボランティア人数：現地ボラ 14 名、CTVC ボラ 10 名

- ・ **第 84 回ボラパック（ふれあい茶の湯）**

日時：2015 年 4 月 27 日

場所：宮代第一仮設住宅集会所

参加者数：14 名

ボランティア人数：現地ボラ 7 名、CTVC ボラ 7 名

- ・ **第 85 回ボラパック（ふれあい茶の湯）**

日時：2015 年 5 月 15 日

場所：宮代第一仮設住宅集会所

参加者数：10 名

ボランティア人数：現地ボラ 6 名、CTVC ボラ 6 名

- ・ **第 86 回ボラパック（浪江焼きそば）**

日時：2015 年 5 月 29 日～30 日

場所：宮代第一仮設住宅集会所前広場

参加者数：約 17 名

ボランティア人数：現地ボラ 17 名、CTVC ボラ 4 名

- ・ **第 87 回ボラパック（楽しい昼食会）**

日時：2015 年 6 月 12 日～13 日

場所：宮代第一仮設住宅集会所

参加者数：15 名

ボランティア人数：現地ボラ 11 名、CTVC19 名

- ・ **第 88 回ボラパック（ふれあい茶の湯、ミネハハコンサート）**

日時：2015 年 6 月 23 日

場所：宮代第一仮設住宅集会所

参加者数：17 名

- ボランティア人数：現地ボラ 9 名、CTVC ボラ 6 名
- ・ **第 89 回ボラパック（ふれあい茶の湯、七夕まつり）**
日時：2015 年 7 月 7 日
場所：宮代第一仮設住宅集会所
参加者数：13 名
ボランティア人数：現地ボラ 3 名、CTVC ボラ 3 名
 - ・ **第 90 回ボラパック（楽しい昼食会、たのしいソーメン会）**
日時：2015 年 7 月 24 日～25 日
場所：宮代第一仮設住宅集会所
参加者数：17 名
ボランティア人数：現地ボラ 6 名、CTVC ボラ 6 名
 - ・ **第 91 回ボラパック（夏祭り）**
日時：2015 年 8 月 7 日～8 日
場所：宮代第一仮設住宅集会所前広場
参加者数：33 名
ボランティア人数：現地ボラ 18 名、CTVC ボラ 9 名
 - ・ **第 92 回ボラパック（ふれあい茶の湯）**
日時：2015 年 8 月 28 日
場所：宮代第一仮設住宅集会所
参加者数：14 名
ボランティア人数：現地ボラ 9 名、CTVC ボラ 11 名
 - ・ **第 93 回ボラパック（希望の風フェスティバル）**
日時：2015 年 9 月 11 日～12 日
場所：宮代第一仮設住宅集会所前広場
参加者数：23 名
ボランティア人数：現地ボラ 29 名、CTVC ボラ 20 名
 - ・ **第 94 回ボラパック（敬老会）**
日時：2015 年 9 月 29 日
場所：宮代第一仮設住宅集会所
参加者数：21 名
ボランティア人数：現地ボラ 10 名、CTVC ボラ 2 名
 - ・ **第 95 回ボラパック（日帰りバス旅行）**
日時：2015 年 10 月 14 日～15 日
場所：山形県米沢市
参加者数：19 名
ボランティア人数：現地ボラ 5 名、CTVC ボラ 5 名
 - ・ **第 96 回ボラパック（ふれあい茶の湯）**
日時：2015 年 10 月 23 日
場所：宮代第一仮設住宅集会所前広場

- 参加者数：15名
ボランティア人数：現地ボラ9名、CTVCボラ5名
- ・ **第97回ボラパック（ふれあい茶の湯）**
日時：2015年11月5日
場所：宮代第一仮設住宅集会所
参加者数：17名
ボランティア人数：現地ボラ5名、CTVCボラ5名
 - ・ **第98回ボラパック（楽しい昼食会）**
日時：2015年11月20日～21日
場所：宮代第一仮設住宅集会所
参加者数：16名
ボランティア人数：現地ボラ8名、CTVCボラ14名
 - ・ **第99回ボラパック（クリスマス会）**
日時：2015年12月18日～19日
場所：宮代第一仮設住宅集会所
参加者数：20名
ボランティア人数：現地ボラ11名、CTVCボラ6名
 - ・ **第100回ボラパック（餅つき大会）**
日時：2015年12月25日～26日
場所：宮代第一仮設住宅集会所前広場
参加者数：21名
ボランティア人数：現地ボラ13名、CTVCボラ15名
 - ・ **第101回ボラパック（初釜）**
日時：2016年1月15日～16日
場所：宮代第一仮設住宅集会所
参加者数：21名
ボランティア人数：現地ボラ12名、CTVCボラ6名
 - ・ **第102回ボラパック（旧正月）**
日時：2016年1月28日～1月29日
場所：宮代第一仮設住宅集会所
参加者数：27名
ボランティア人数：現地ボラ9名、CTVCボラ19名
 - ・ **第103回ボラパック（ふれあい茶の湯）**
日時：2016年2月12日
場所：宮代第一仮設住宅集会所
参加者数：11名
ボランティア人数：現地ボラ6名、CTVCボラ1名
 - ・ **第104回ボラパック（ひな祭り）**
日時：2016年2月26日～27日

場所：宮代第一仮設住宅集会所

参加者数：20名

ボランティア人数：現地ボラ13名、CTVCボラ7名

・ **第105回ボラパック（献茶式・「東日本大震災犠牲者追悼と復興を願う集い」）**

日時：2016年3月11日

場所：宮代第一仮設住宅集会所

参加者数：28名

ボランティア人数：現地ボラ14名、CTVCボラ9名

・ **第106回ボラパック（ふれあい茶の湯）**

日時：2016年3月18日

場所：宮代第一仮設住宅集会所

参加者数：13名

ボランティア人数：現地ボラ8名、CTVCボラ1名

<その他>

- ・ 11月29日の入居者主催の忘年会にCTVCもご招待され、スタッフが参加した。

(3) 福島県白河市

2011年9月より、白河市カトリック白河教会の信徒を含む傾聴グループ「白河・みみずく」との協働のもと、白河市内にある中田グラウンド仮設住宅、郭内仮設住宅にて活動を開始。中田グラウンド仮設住宅は、白河市、南相馬市、浪江町など各地からの避難者が混在する仮設住宅であり、郭内仮設住宅には、双葉町からの避難者が入居している。みみずくでは、2011年8月よりこれら二つの仮設住宅にて週一回の傾聴訪問を主活動とし、イベントは春、夏、秋に各一回行った。2015年のイベントは、前年の繰り返しではなく避難者の意向を優先し、企画、運営も仮設住民が行うようになった。自立への準備と避難者の持つ可能性に信頼した変化である。

CTVCでは、イベントにボラパックとしてボランティアを派遣。また、2012年9月からは、白河担当のスタッフ3名が第1週から3週にかけて交代で白河に赴き、傾聴活動に参加してきた。

現在、中田仮設住宅に留まっている入居者は120世帯から7世帯13人に減少。郭内仮設住宅は全戸120世帯規模の中で33世帯、40名が入居。（世帯数は2015年12月31日現在）

福島県は仮設住宅供与期間を全県一律2017年3月までと謳っているが、その後の継続もあり得ることを否定していない。

この中で、白河みみずくは仮設在住者が減少し、今後はみみずく独自で運営可能と、2015年12月をもってCTVCの支援を断りたい旨の申し出があり、支援の終了を決定した。

【傾聴活動】

第1～第3火曜日午後3時頃から約1時間各戸訪問を続けている。メンバーは5名。

継続はかなりの通り、定期的な訪問活動は中田、郭内仮設住宅入居者からの高い評価を得ている。

2013 年下期から第 4 火曜日はみみずくスタッフの研修日としている。

CTVC からは毎月第 1 週から第 3 週の活動日に担当スタッフが交代で傾聴活動に参加した。

<ボラパック>

ボラパック開催回数：1 回

（ボランティアを募集した「ボラパック」の催行は一回）

イベント開催：2 回

イベント運営も「被災者が主体的に」とのみみずくの意向で CTVC からは、担当スタッフのみが参加した。

ボランティア総数：60 名（現地ボラ 43 名、CTVC17 名）

参加者（受益者）総数：218 名

・ 第 13 回ボラパック（お花見）

日時：2015 年 4 月 20 日～21 日

場所：小峰城址公園

参加者数：81 名（中田・郭内 2 仮設合同）

ボランティア人数：現地ボラ 17 名、CTVC ボラ 13 名

土用もちを食べる会

日時：2015 年 8 月 28 日

場所：知足庵

参加者数：17 名（郭内仮設）

ボランティア人数：現地ボラ 8 名、CTVC ボラ 2 名

新そばを食べる会

日時：2015 年 12 月 9 日

場所：郭内第二仮設住宅広場

参加者数：120 名（郭内仮設住宅、借り上げ住宅）

ボランティア人数：現地ボラ 18 名、CTVC ボラ 2 名

(4) 福島県南相馬市

2006 年 1 月 1 日、旧小高町・旧鹿島町・旧原町市が合併し、南相馬市として歩んで、2016 年は 10 周年になる。3 つの地域の文化と人々が一つになろうとしていた 5 年目の 2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故の影響で、放射線量による線引と重なるように 3 地域が分断されてしまった。しかしながら、この 5 年間で、この 3 地域がいろいろな形で混ざり合わざるを得なくなったことは事実である。避難指示解除準備区域の小高区の住民の方々は鹿島区に建てられた仮設住宅に住み、鹿島の住民との交流もあった。

2016 年 4 月に、避難指示解除の予定が延長されたが、準備宿泊制度により、既に自宅で住み始める方々もいる。

除染作業は急ピッチで進み、昼夜交代で作業が行われている。町にも飲食店が増え、一見順調に復興しているように見える。除染が完了し、水道・電気などのインフラ整備も完了。しか

し、商店、病院、介護施設などが戻ってこなければ安心した社会生活は送れない。また、安定した雇用が市内にないことも、若い世代が帰還する障害になっている。

また、災害公営住宅に移転する人が増加した反面、高齢者の世代が取り残されていく傾向にある。（建設中もまだまだある。）

汚染物の入った黒い袋が「仮の仮置き場」という場所にどんどん積み上げられている。居住区域と隣り合わせに仮置き場がある風景が広がっている。

<活動>

南相馬市民の全員は、地震・津波・原発事故の影響で、一時は屋内待機や市外・県外へ避難された被災者である。南相馬市にある仮設住宅 32 か所のうち、福島第一原発から 30 km 圏外の鹿島区には、仮設住宅が 27 か所建てられている。そして南相馬市中央部にあたる原町区には、避難解除後の 2012 年に、5 か所建設された。

カリタス原町ベースは南相馬市原町区にあり、北にある鹿島区の仮設住宅集会所でのサロン活動と南にある小高区の避難解除準備区域にある家々からの依頼を受けた屋外活動を中心に継続して行っている。サロン活動は主に、交流会、音楽会、講演会などのイベントの提供・協力・支援をしている。屋外活動は主に、家財道具の片づけ、庭の手入れ、田畑の草刈り等をしている。基本的には、南相馬市社会福祉協議会のボランティアセンターを通して紹介された場所で活動している。

沿岸部の被災地案内もさらに重要な活動となってきている。常磐道が 2015 年 3 月 1 日に全線開通し、すでに開通していた国道 6 号線と合わせて、南相馬～いわき市までの被災地の案内をしている。

2015 年 5 月 31 日、近隣の方々や仮設住宅の住民をお招きし、原町ベース開所 3 周年記念感謝イベントを行った。地元民謡同好会の方々の歌や器楽演奏、盆踊りなどの出し物が出た。約 200 名の方々にご参加いただいた。

CTVC の活動地域の宮城県南部と福島県全域の中にあるベースとして、その範囲での活動にも必要に応じて、協働した。福島・宮代ボラパック「ふれあい茶の湯」には原町ベースからも参加し、希望者には原町まで案内を行った。宮城県南部の亘理ボラパックでは、原町ベーススタッフやボランティアが参加協力をした。

和みサロン「真こころ」とのつながりも、5 年目になり、運営支援を継続した。

ベースの利用者は、延べ約 4,000 名。常時 10 人程度のボランティアが滞在した。（別表参照）

<ボランティア活動内容>

【昨年度から継続して行った活動】

屋外活動

南相馬市社会福祉協議会（以降、社協）を通して依頼される活動を継続した。

活動場所：南相馬市小高区内—「避難指示解除準備区域及び居住制限区域」

活動内容：家財道具整理や処分や草刈りと樹木の剪定

屋内活動

仮設住宅集会所でのボランティア活動

活動場所：社協から紹介された仮設集会所、借り上げサロン、和みサロン「真こころ」、

活動内容：手芸・パッチワーク、足湯、交流会、講話、演奏会等の準備・企画・実施

月1回、火曜日 やさい配布（二本松と連携） 仮設住宅各戸（毎週180戸）

月1回、足湯、パッチワーク

ベース内の活動支援（それぞれ、月2回）

活動内容：とまとサロン、卓球、大正琴他の活動協力

被災地案内

被災地案内を希望された方や初めてこの地を訪れるボランティアの方々被災地を案内した。

案内場所：国道6号線沿岸部（南相馬市鹿島区・小高区・浪江町・双葉町・大熊町・富岡町・
檜葉町・広野町）、南相馬市、希望の牧場他

地元の方の講演の調整や各地での活動報告

見守りボランティア

2015年1月さゆり幼稚園から支援要請があり協力。働く母親支援として、主に放課後から夕方、仕事帰りのお迎えの時間までの延長保育時間の見守り活動。

お告げのマリア修道会のシスター真浦えり子が中心となって、他のボランティアさん達と共に行う。

借り上げサロン

借り上げ住宅に住む住民に向けたサロン活動を実施した。社協が行うサロン活動と連携したほか、ベース主催によるサロン活動も行った。

社協サロンと連携：月2回水曜日の午後2時～4時

参加人数（毎回）：約40人

カリタスの集い（ママサロン）

さゆり幼稚園の保護者とその「ママ友」たちを対象に、おやつ作り、リース作りなどをしながらおしゃべりをし、子育ての情報交換の場を作った。仙台教区サポートセンターの長島明子さんが主になり、ベーススタッフが協力した。

月1～2回程度。参加人数は1人～6人。

【今年度の新しい活動】

牛越仮設サロン

借り上げサロンの交流会で行うカリタス原町ベーススタッフによる音楽プログラムを牛越仮設サロンでもしてほしいという要請を受けた。

活動場所：原町区牛越仮設住宅集会所

活動内容：音楽の提供。2月に1回2時間程度

おだかぷらっとほーむ

避難指示解除準備区域の小高区は2016年4月に避難指示解除となる予定となることが公表されていた。それを踏まえて、小高区住民の3人の女性が小高駅前に「おだかぷらっとほーむ」を10月1日に開設した。以前から、原町ベースとの交流があったことから、支援要請があり、

「留守番」を引き受けた。「留守番」がその場に存在することにより、人が立ち寄りやすくなる効果がある。次第に、ボランティアさんたちと小高の地元の方々との交流が深まってきている。

10月から毎週火曜日、少なくとも2人は、原町ベースから留守番として行っている。

【特別イベント】

・開所3周年記念感謝デー 特別イベント

実施日：2015年5月31日（日）

参加者：約200名

活動内容：食べ物、持ち帰りコーナー、歌と演奏

・花いっぱいキャンペーン

実施日：2015年10月28日（水）～29日（木）

活動場所：仮設住宅1か所、「おだかぶらっとほーむ」

参加人数：各約20名

・「命の行進」

実施日：2016年3月8日（火）～10日（木） 参加人数：約20名

活動場所：原町～小高区同慶寺～浪江町請戸港

・追悼の祈り

実施日：2016年3月10日（水） 参加人数：約40名

活動場所：同慶寺（南相馬市小高区）

・亙理・山元 追悼行事

実施日：2016年3月11日（木） 参加人数（2か所合わせて）：約70名

活動内容：シスターたちによるラテン語聖歌の奉納等

・南相馬市鎮魂復興市民植樹祭

実施日：2016年3月25日（金）～27日（日） 参加人数：5名

活動場所：南相馬市原町区萱浜

【研修会】

・日本女子修道会総長管区長会（生涯養成委員会）福島・いのちの旅

実施日：2015年6月15日（月）～17日（水）

参加人数：13名（修道女）

内容：①講話：南相馬市寺内第一応急仮設住宅集会所 松野みき子氏

南相馬市在住、クリーニング会社社長、さゆり幼稚園卒業生 高橋美加子氏

カトリックさゆり幼稚園 主任 鎌田文代氏

福島第一聖書バプテスト教会 佐藤彰牧師

希望の牧場 吉澤正巳氏

②やさい配り 寺内第一応急仮設住宅（81戸）、角川原応急仮設住宅（76戸）

③被災地案内

・カトリック全国聴覚障がい者

実施：2015年6月22日(月)～23日(火) 参加人数：26名

・ **第五回東日本大震災仙台教区復興支援全国担当者会議**

実施日：2015年6月30日(火)～7月1日(水) 活動人数：40人

内容：①講演会：吉沢牧場「希望の牧場」 吉澤正巳氏

②被災地案内

広島学院高校生ボランティア研修

実施日：2015年8月5日(水)～31日(月) 参加人数：20名

a. 活動報告

各地からの依頼に応え活動報告、広報活動を行った。

・ **聖心女子大学**

開催日：2016年1月15日(金) 参加人数：約60名

・ **八代白百合学園高等学校(熊本) 修学旅行中にいわき教会にて**

開催日：2016年3月1日(火) 参加人数：約150名(いわき教会の信徒も参加)

・ **長崎教区各地における活動報告(シスター真浦の紹介)**

開催日：2016年3月19日(土)～3月28日(月)

b. 会議

毎週水曜日にベーススタッフミーティングを開催。また次のとおり CTVC スタッフ及びベース関係者が参加する原町会議を開催した。

・ **第10回原町会議** 開催日：2015年6月1日(月)

・ **第11回原町会議** 開催日：2015年11月25日(水)

<物資支援>

全国各地の支援団体や個人から届く支援物資を内容や個数を確認し、仮設住宅住民や借り上げ住宅住民に配布した。また端切れなどは手芸を行っている仮設住宅集会所に手芸材料として提供した。

配布した物資：お菓子類、食器、研いだ包丁、布地、糸

配布の機会：やさい配り、カリタスサロン、サロン支援、ラジオ体操

<その他>

諸機関との連携・協働

南相馬市で活動する諸機関と協働し活動を展開したほか、連携を図った。

・ 和みサロン「真ころ」－ 仮設集会所 3か所

・ 自立研修施設「えんどう豆」の活動を支援

・ 癒しのサロン—小高区からの避難者への支援 — 仮設集会所 4か所

・ 「おだかぶらっとほーむ」小高定例会議 毎月出席

同慶寺(小高区)

原町社会福祉協議会—借り上げサロンの支援、小高社会福祉協議会—小高区内の屋外活動

＜資料＞ボランティア数の推移と受益者数の推移（カッコ内数字は実数）

2015年	4月～6月 (612)人		7月～9月 (680)人	
活動項目	受益者数	ボランティア数	受益者数	ボランティア数
社協仮設サロン(人)	207	43	174	49
真こころサロン(人)	221	113	372	241
社協屋外活動(件)	57	305	54	263
NPOボラセン(件)	38	84	42	81
やさい配り(戸)	314	30	300	20
(新)幼稚園(人)	304	93	350	154
足湯(人)	165	56	171	47
(新)社協巡回5月まで(人)	433	37		
仮設住宅内掃除7月開始			12	26
(新)カリタスサロン(人)	13	21	4	7
その他(人)	548	252	342	244
合計		1086		1293
被災地案内	件数	参加人数	件数	参加人数
	26	212	36	347

2015年～2016年	10月～12月 (347)人		1月～3月 (293)人	
活動項目	受益者数	ボランティア数	受益者数	ボランティア数
社協仮設サロン(人)	205	47	20	9
真こころサロン(人)	162	66	174	71
社協屋外活動(件)	44	180	61	207
NPOボラセン(件)	33	49	50	146
やさい配り(戸)	720	19	500	17
(新)幼稚園(人)	596	91	432	115
足湯(人)	160	50	59	26
仮設住宅内掃除11月終了	9	23		
(新)カリタスサロン(人)	37	20	10	9
その他(人)	802	199	1279	196
合計		779		796
被災地案内	件数	参加人数	件数	参加人数
	31	198	32	170
年間合計→	125	927		

(5) 福島県会津若松市

2012年5月より有志を募り支援活動を行ってきたカトリック会津若松教会の社会福祉部とともに、「県内自主避難連絡会」の県内自主避難家族の主に母親と子どもたちの支援を継続してきたが、2014年10月に会は解散、会津若松教会社会福祉部は、その後も自主避難者が気軽に立ち寄れる場を提供するために、クレイジーキルト作りやお茶のみサロンの場を提供するなどの活動を継続した。CTVCでは、定期的に元県内自主避難連絡会メンバー、カトリック会津若松教会社会福祉部とともに会合を持ち、情報共有を行った。

8月の時点で元「連絡会」で連絡が取れるメンバーは約10名に激減している。避難元への帰還、会津若松やその他の地域への移住など、メンバーの選択により、状況やニーズも異なってきたため、グループとしての取り組みよりも、個人の相談や悩みを語る場を提供できるよう、会津若松教会の役割もシフトしつつある。

① 福祉部との会合

・2015年4月24日、2015年8月26日、2016年1月27日

(6) 福島全般

① 福島県の現状を知るための視察ツアーの企画に協力し、実施した。

- ・2015年6月15日～18日 修女連 福島視察
- ・2016年1月9日～10日 UCAN取材同行（カリタスジャパンの依頼に協力）

(7) 山形県米沢市

2014年5月に福島県内から米沢市の牛森雇用促進住宅団地などに主に自主避難しているメンバーで構成された「ハート・ウェッジ福島」の代表である湯野川政弘氏より支援の申し出があり、カトリック米沢教会の司祭、教会委員長とCTVCスタッフによる面談を行い、支援を開始した。

主な活動は、子どもが思いきり遊べて、メンバー同士の交流になるイベントの企画実施と物資支援である。物資支援は全国の修道会や個人などからや、カトリック米沢教会が近隣教会である長井教会や山形教会に働きかけ物資を募るなど継続的な支援が行われている。CTVCとしては、お花見と夏の合宿のイベントを実施した。夏の合宿では、仙台にある聖ドミニコの家から受け入れ希望の誘いを受け実施した。

① イベント

・2015年4月25日 お花見 会場：置賜さくら回廊周遊

(参加者24名、現地ボランティア4名、CTVCスタッフ3名)

・2015年8月17日・18日 「聖ドミニコの家 夏の合宿」

(参加者9名、現地ボランティア4名、渡辺師(ドミニコ会)、小松師(仙台教区)、CTVCスタッフ2名)

(7月30日に担当スタッフによる合宿地下見を行った)

②ハート・ウェッジ、米沢教会、CTVCによる会合

2015年7月6日、8月7日、11月26日、2016年1月27日

3. 広報

2011年6月より発行してきた「CTVC ニュース」を「かわらばん！」として継続し月1回発行した。前年度に引き続き月間レポートを関係諸団体に向けメール配信し、東京教区ニュースにCTVC連載記事を掲載した。

4. 企画行事・報告会・連絡会

<3・11 東京教区主催行事の企画>

東日本大震災追悼・復興祈念行事「思いつづける3・11」

～犠牲者・被災者・避難者のために祈るつどい～

(東京カテドラル関口教会聖マリア大聖堂、参加者約600人)

第1部のオルガンメディテーションは、福島県南相馬市出身の青田絹江さんによるオルガン演奏と国立音楽大学創立90周年記念合唱団の合唱に耳を傾け、静かに被災地に心を寄せた。第2部では、いわき市出身の歌手Yukariさんの歌声を聴きながら、震災直後から現在までを映像で振り返った。14時46分の黙とうの後、犠牲者の追悼と復興への願いを込めてミサを捧げた。またこの日発行の講演録「福島から語る－3.11以降を生きる人々の声－」を参加者に配布した。

福島の現実を伝えるシリーズ「福島から語る」講演会を年2回実地した。ボランティア報告会や活動説明会、バザーへの出展など、支援活動への協力と活動の周知を図った。

<シリーズ「福島から語る」/「被災地から語る」>

2015年5月15日 「福島から語る」湯野川政弘氏(山形県米沢市「ハートウェッジ福島」)

2015年12月5日 「福島から語る」松野みき子氏(福島県南相馬市「真こころ」)

<活動紹介・イベント出展・その他>

2015年6月13日 聖心女子大学震災復興支援チャリティデー

2015年9月22日 「正義と平和」全国集会東京大会

分科会「二つの震災から『コミュニティ』を考える」企画担当と物販出展

2015年10月18日 立川教会・徳田教会バザー 出展

2015年10月25日 三軒茶屋教会バザー 出展

2015年11月2日 東日本大震災復興支援 in 九州(カトリック神学院福岡キャンパス)

2015年11月8日 志村教会バザー 出展

2016年2月13日 きらきら星ネットチャリティデー JLMM ゴスペル(聖アンデレ教会)

2016年2月29日 JCN(東日本大震災支援全国ネットワーク)現地会議 in 宮城

2016年3月16日 聖ヨハネ会 法人事務局長訪問・活動報告

2016年3月28日 フランシスコ会聖ヨゼフ修道院利用団体オリエンテーション(事務局)

5. 会議

(1) 運営委員会

毎月1回、計10回運営委員会を実施した。

(2) スタッフミーティング

CTVC、スタッフによるミーティングを月に1回程度行い、活動の報告と今後の活動についての調整、打ち合わせを行った。

(3) 福島ブロック会議

福島県内で活動しているカトリック教会、グループ間で情報共有し、連携を深めていくために福島ブロック会議を3回実施した。なお、2013年1月以降は、2012年12月に開設された仙台教区サポートセンター福島デスクが主催となって実施。CTVCは福島県内で活動している1団体として会議に参加した。

(4) 原町会議

2012年に立ち上げたカリタス原町ベースの活動についてCTVC全体で話し合う原町会議を4回実施した。また同じく原町で活動を行うカトリック系コミュニティとの連携・情報共有の場ともなった。

(5) 外部会議

福島県、宮城県南部で活動する他団体との連携のため、カリタスベース関係及び外部団体主催の会議に出席した。

全ベース会議 5回

(6) 全国担当者会議

2015年6月29日～7月1日に行われた第5回東日本大震災仙台教区復興支援全国担当者会議において福島県北地域の視察プログラムを担当。これまでのカリタス担当者に加え、各教区から4名まで参加できることになり、広く参加を呼びかけた。最終日の全体会は仙台の元寺小路教会にて行われ、支援活動を行っている小教区の信徒による活動紹介や今抱える問題などについての分かち合いがあった。

(7) カリタス原町新ベース建設準備

南相馬市において、ベース活動を発展させ、地域の人々とともに地域の活性化のための拠点をつくるために、仙台教区やカリタスジャパンなど関係者との会合や現場での聴き取りや会合を行った。

建設委員会及び建築委員会

2015年9月25日 第1回建設委員会

2015年10月9日 第2回建設委員会

2015年11月25日 第3回建設委員会

2016年1月26日 第1回建築委員会

2016年3月9日 第2回建築委員会

■活動収支報告 2015年度

(2015年4月～2016年3月)

収 入	(単位:千円)
カリタスジャパン援助金	32,360
一般献金・寄付	13,051
合計	45,411

支 出	(単位:千円)
プロジェクト直接費用	
被災者支援	11,363
原町ベース運営	17,970
物資支援	0
長期ボランティア派遣	110
アドボカシー	151
連携	346
プロジェクト間接費用	
プロジェクト車両費、事務費 (通信費、事務機器、文具、 人件費など)	11,429
合計	41,369